

皆様

本日は、シアトル日本語補習学校の赤坂真知子先生の30年勤続を表彰させて頂きます。皆様には、ご多忙の中、多くの方々にお集まり頂きありがとうございます。



#### 1. シアトル日本語補習校40年の歩み

シアトル日本語補習学校は、1971年に『シアトル日本人学校』として開校され、「心身ともに健康で明るく、将来国を越えて活躍できる人間性豊かな自律した児童生徒を育成する」という教育目標を掲げ、毎週土曜日に日本語による授業を行って来ました。

Beacon HillのUnited Methodist Churchの一角で、現地採用教員4名、児童生徒52名と、小さく生まれましたが、今はBellevueのSammamish高校に教員60名、児童生徒569名と、大きく育ってきました。小中学生の在籍者数でみると、世界第6位の規模の補習校となっています。児童生徒も在留邦人から永住者の子弟へと大きく広がっています。これは諸先輩のご尽力は勿論のこと、ここにお集まりの皆様のためまぬ努力のおかげであり、この機会を捉え、心より感謝を申し上げたいと思います。



## 2. 赤坂真知子先生30年の功績

赤坂真知子先生は Eastern Washington 大学で教育学の修士課程を修められた後、1980年よりシアトル日本語補習学校の教員になられ、30年余り補習校と一緒に歩いて来られました。30年前といえば「ここにいらっしゃる皆様はまだこの世に生まれていない」ということはないにしても、校旗も校歌もなく、文集『土曜日』もまだ発刊されておりました。

赤坂先生は、教育者としての使命感、児童達への愛情に溢れ、教材を絶えず研究し、工夫を凝らして授業に取り組んでこられました。そのクラスの指導ぶりは、深い専門性に裏付けられており、若手教員の手本となっています。また長年にわたり、学年主任、学部主任を務め、補習校の教務運営に携われ、補習校の発展に尽くしてこられました。

小さな身体にもかかわらず、持ち前の明るい性格を前面に出され、廊下に溢れるばかりの大きな声で児童達をリードされ、児童達の人気のみならず、保護者からも大きな信頼が寄せられています。”Small head but great wit”『山椒は小粒でもピリリと辛い』とは、赤坂先生を指す言葉なのでしょう。

この30年間で、赤坂先生の教え子は延べ500名を超えており、赤坂先生には、国語教育を通じ、児童達の日本の社会と文化に対する理解を深めて頂きました、それは翻って米国の社会と文化に対する理解を深めることでもありま

す。また赤坂先生は、Edmonds Community Collegeにおいても、日本語クラスで教鞭を執られており、日米教育文化交流、日米草の根交流に大きな役割を果たして来られました。本日、赤坂先生の功績をたたえ表彰させて頂くことは、誠に意義深く、喜ばしく思っております。



### 3. シアトル日本語補習校の更なる発展

ここにいらっしゃる赤坂先生はじめ多くの先生方は、本業を別途に持たれ、あるいはご家庭をお持ちになっておられます。そうしたお立場でありながら、週末となる土曜日を、毎週児童生徒達の教育に捧げてこられました。これは続けたいと思っけていても、なかなか続けることが出来るものではありません。周囲のご理解や励まし、サポートがあつてのことと思います。

教育は、人づくりであり、手作りです。「心を込めれば、心を込めただけ、大きな喜びとなって返ってくる」のが教育と伺っています。子供達の成長こそは、皆様の生きがい、教育に携わられる方々にとっての醍醐味であろうと思います。補習校に伺うと、皆様が実に生き生きとしていらっしゃるの、いつも感心しております。

最後に一言申し上げれば、補習校は、子供達を教え育てる場ではありますが、私達も教え育てられる場でもあります。教員として、父兄として、運営委員として、補習校の様々な課題に向き合い、これら課題を克服しようとする度に、アメリカの教育、日本人のあり方、アメリカのコミュニティ活動などにつき、

色々と考えさせられ、教えられることばかりではないかと思います。

学ぶのは子供達ばかりではありません。私達も、子供達に負けず劣らず、色々  
と学びつつ教えられつつ、シアトル日本語補習学校の更なる発展のため、一緒  
に力を合わせていこうではありませんか？

赤坂真知子先生、本日は誠におめでとうございます。

